

令和 5 年度病害虫発生予察予報第 12 号(令和 6 年 3 月)

令和 6 年 3 月 5 日
高知県病害虫防除所

《予報の概要》

作物名	病害虫名	予想発生量※
促成キュウリ	べと病 うどんこ病 つる枯病 黄化えそ病 退緑黄化病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(中央、西)</u> 、 <u>やや多(中西)</u> <u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、やや少(西) <u>多(西)</u> 、 <u>やや多(中西)</u> 、やや少(中央) <u>多(県下全域)</u> <u>多(県下全域)</u> <u>やや多(中西、西)</u> 、やや少(中央) <u>多(西)</u> 、 <u>やや多(中西)</u> 、やや少(中央)
促成ナス	灰色かび病 うどんこ病 黒枯病 すすかび病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(東)</u> 、やや少(中央、西) <u>多(中央)</u> 、やや少(東、西) <u>多(西)</u> 、平年並(東)、やや少(中央) <u>多(西)</u> 、 <u>やや多(東)</u> 、平年並(中央) 少(県下全域) <u>やや多(西)</u> 、やや少(東、中央)
促成ピーマン ・シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 ハスモンヨトウ ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>やや多(東、中央)</u> 、平年並(中西) <u>やや多(中央)</u> 、平年並(中西)、やや少(東) <u>多(中央)</u> 、やや少(東、中西) <u>多(県下全域)</u> <u>やや多(中央)</u> 、少(東、中西) やや少(中央)、少(東、中西)
促成トマト	葉かび病 すすかび病 灰色かび病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> <u>やや多(中央)</u> <u>やや多(中央)</u> やや少(中央)

※ ()内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
吾川郡いの町および高岡郡日高村
県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く)町村および吾川郡仁淀川町
県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村
なお、野菜は「土佐市」を中央部に入れています。

I 気象予報(高松地方気象台 2月29日発表)

3月2日から4月1日までの天候見通し

＜予想される向こう1か月の天候＞

寒気の影響を受けにくいと、向こう1か月の気温は平年並か高い見込みです。降水量と日照時間はほぼ平年並ですが、期間のはじめを中心に、低気圧や前線の影響を受ける時期がある見込みです。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、多い確率40%です。日照時間は、少ない確率40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、平年並、高い確率とも40%です。3～4週間は、平年並、高い確率とも40%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)
1か月	四国地方	気温	20	40		40
		降水量	30	30		40
		日照時間	40	30		30

＜気温経過の各階級の確率(%)＞

期間	対象地域	低い		平年並	高い
1週目	四国地方	30	50		20
2週目		20	40		40
3～4週目		20	40		40

＜予報の対象期間＞

1か月：3月2日(土)～4月1日(月)

1週目：3月2日(土)～3月8日(金)

2週目：3月9日(土)～3月15日(金)

3～4週目：3月16日(土)～3月29日(金)

II 病虫害発生予想

1 促成キュウリの病虫害

1)べと病

予 想 発生量：多(中央部、西部)、やや多(中西部)

根 拠

(1) 2月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部と西部で平年より多く、中西部で平年並であった。発病程度は中央部と西部で平年より高く、中西部で平年並であった。

(2) 3月の気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。夜温が高めに推移した場合、加温機が稼働せずハウス内湿度が高まること、また、強日射によ

り、日の出後のハウス内気温が急上昇し結露しやすくなることから、発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

予 想 発生量：多(中西部)、やや多(中央部)、やや少(西部)

根 拠

- (1) 2月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は県中西部で平年よりやや多く、中央部で平年並、西部で少なかった。発病程度は、中央部、中西部で平年並、西部で低かった。
- (2) 3月の気温は平年並か高いと予想されていることから、日中のハウス内は乾燥条件となりやすく、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

3) つる枯病

予 想 発生量：多(西部)、やや多(中西部)、やや少(中央部)

根 拠

- (1) 2月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は県西部で平年よりやや多く、中西部で平年並、中央部で少なかった。発病程度は、中西部で平年並、中央部、西部で平年より低かった。
- (2) 3月の気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。夜温が高めに推移した場合、加温機が稼働せずハウス内湿度が高まること、また、強日射により、日の出後のハウス内気温が急上昇し結露しやすくなることから、発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病した茎葉等は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) 黄化えそ病

予 想 発生量：多(県下全域)

根 拠

- (1) 2月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部、西部で平年より多く、中西部でやや多かった。発病程度は西部で平年より高く、中央部でやや高く、中西部で平年並であった。
- (2) 各地域とも既発ほ場を中心に新たな発生が確認されている。また、媒介虫であるミナミキイロアザミウマの発生は、県下全域で確認されている。
- (3) 3月の気温は平年並か高いと予想されており、本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの密度が高まると見込まれることから、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を低密度時に徹底して実施するとともに、ウイルスを保毒した虫がハウス外に飛び出さないよう対策を講じる。
- (2) 罹病株は早期に除去し、埋却などにより処分する。

5)退緑黄化病

予 想 発生量：多(県下全域)

根 拠

- (1) 2月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積はいずれの地域も平年より多く、発病程度は県中央部、中西部で平年より高く、西部で平年並であった。
- (2) 媒介虫であるタバココナジラミの発生が県下全域で確認されていることから、3月以降も既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を低密度時に徹底して実施するとともに、ウイルスを保毒した虫がハウス外に飛び出さないよう対策を講じる。
- (2) 罹病株は早期に除去し、埋却などにより処分する。

6)ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや多(中西部、西部)、やや少(中央部)

根 拠

- (1) 2月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中西部、西部で平年並、中央部で平年より少なかった。発生程度は西部で平年よりやや高く、中西部で平年並、中央部で低かった。
- (2) 3月の気温は平年並か高いと予想されており、本虫の増殖に好適となることから、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 青色粘着トラップの設置等により、早期発見・早期防除に努める。既発ほ場では特に防除を徹底する。
- (2) 本虫は、多くの薬剤に対し抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、化学合成殺虫剤以外の防除方法も取り入れる。

7)タバココナジラミ

予 想 発生量：多(西部)、やや多(中西部)、やや少(中央部)

根 拠

- (1) 2月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は県西部で平年よりやや多く、中西部で平年並、中央部で少なかった。発生程度は中西部で平年並、中央部、西部で平年よりやや低かった。
- (2) 3月の気温は平年並か高いと予想されており、本虫の増殖に好適となることから、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 黄色粘着トラップの設置等により、早期発見・早期防除に努める。
- (2) 本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。

2 促成ナスの病害虫

1) 灰色かび病

予 想 発生量：多(東部)、やや少(中央部、西部)

根 拠

- (1) 2月の調査では県東部、中央部で発生が見られ、発生面積は東部で平年より多く、中央部で少なかった。発病程度は東部で平年より高く、中央部で低かった。
- (2) 3月の気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。夜温が高めに推移した場合、加温機が稼働せずハウス内湿度が高まること、また、強日射により、日の出後のハウス内気温が急上昇し結露しやすくなることから、発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 換気などによりハウス内湿度の低下に努めるとともに、発病した果実はほ場外に持ち出して処分する。

2) うどんこ病

予 想 発生量：多(中央部)、やや少(東部、西部)

根 拠

- (1) 2月の調査では県東部、中央部で発生が見られ、発生面積は中央部で平年より多く、東部で少なかった。発病程度は中央部で平年より高く、東部でやや低かった。
- (2) 3月の気温は平年並か高いと予想されていることから、日中のハウス内は乾燥条件となりやすく、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

3) 黒枯病

予 想 発生量：多(西部)、平年並(東部)、やや少(中央部)

根 拠

- (1) 2月の調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県西部で平年より多く、東部でやや少なく、中央部で少なかった。発病程度は西部で平年より高く、東部で平年並、中央部で低かった。
- (2) 3月の気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。夜温が高めに推移した場合、加温機が稼働せずハウス内湿度が高まること、また、強日射により、日の出後のハウス内気温が急上昇し結露しやすくなることから、発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) すすかび病

予 想 発生量：多(西部)、やや多(東部)、平年並(中央部)

根 拠

- (1) 2月の調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県西部で平年より多く、

東部で平年並、中央部でやや少なかった。発病程度は西部で平年より高く、東部でやや低く、中央部で低かった。

- (2) 3月の気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。夜温が高めに推移した場合、加温機が稼働せずハウス内湿度が高まること、また、強日射により、日の出後のハウス内気温が急上昇し結露しやすくなることから、発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：少(県下全域)

根 拠

- (1) 2月の調査では県下全域で発生が見られなかった。
- (2) 3月は気温が上昇し、本虫の増殖に好適となる時期ではあるが、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着しているため、少発生で推移するものと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。
- (2) 天敵類の密度が低いほ場では、追加放飼を検討する。

6) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多(西部)、やや少(東部、中央部)

根 拠

- (1) 県下全域で発生が見られた。発生面積は県西部で平年より多く、東部、中央部で平年並であった。発生程度は西部で平年より高く、東部、中央部で低かった。
- (2) 3月は気温が上昇し、本虫の増殖に好適となる時期ではあるが、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着しているため、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。
- (2) 天敵類の密度が低いほ場では、追加放飼を検討する。

3 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：やや多(東部、中央部)、平年並(中西部)

根 拠

- (1) 2月の調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県東部、中央部で平年並、中西部で平年よりやや少なかった。発病程度は東部、中西部で平年より高く、中央部で低かった。
- (2) 3月の気温は平年並か高いと予想されていることから、日中のハウス内は乾燥条件となりやすく、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 斑点病

予 想 発生量：やや多(中央部)、平年並(中西部)、やや少(東部)

根 拠

- (1) 2月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部で平年並、中西部で平年よりやや少なく、東部で少なかった。発病程度は中央部で平年よりやや低く、東部、中西部で低かった。
- (2) 3月の気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。夜温が高めに推移した場合、加温機が稼働せずハウス内湿度が高まること、また、強日射により、日の出後のハウス内気温が急上昇し結露しやすくなることから、発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) 黒枯病

予 想 発生量：多(中央部)、やや少(東部、中西部)

根 拠

- (1) 2月の調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部で平年より多く、東部、中西部で少なかった。発病程度は中央部で平年より高く、東部で平年並、中西部では低かった。
- (2) 3月の気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。夜温が高めに推移した場合、加温機が稼働せずハウス内湿度が高まること、また、強日射により、日の出後のハウス内気温が急上昇し結露しやすくなることから、発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：多(県下全域)

根 拠

- (1) 2月の調査では県下全域で発生が見られた。発生面積はいずれの地域も平年より多く、発生程度は県東部、中央部で平年より高く、中西部で平年並であった。
- (2) 3月は気温が上昇し、本虫の増殖に好適となる時期であることから、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 薬剤の抵抗性が発達した個体群がいる可能性があるので、防除薬剤の選定に注意する。

(2) 卵塊やふ化後の幼虫集団を見つけたら、直ちに処分する。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや多(中央部)、少(東部、中西部)

根 拠

- (1) 2月の調査では県東部、中央部で発生が見られた。発生面積は県中央部で平年より多く、東部でやや少なかった。発生程度は中央部で平年並、東部で平年より低かった。
- (2) 3月は気温が上昇し、本虫の増殖に好適となる時期ではあるが、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着しているため、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。
- (2) 天敵類の密度が低いほ場では、追加放飼を検討する。

6) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや少(中央部)、少(東部、中西部)

根 拠

- (1) 2月の調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部で平年並、東部、中西部で平年よりやや少なかった。発生程度は中西部で平年より高く、その他の地域では低かった。
- (2) 3月は気温が上昇し、本虫の増殖に好適となる時期ではあるが、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着しているため、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。
- (2) 天敵類の密度が低いほ場では、追加放飼を検討する。

4 促成トマトの病害虫

1) 葉かび病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 2月の調査では発生面積は平年より多く、発病程度は低かった。
- (2) 耐病性品種が普及しているものの、着果負担等により草勢が低下すると本病の発生が助長されると考えられる。
- (3) 3月の気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。夜温が高めに推移した場合、加温機が稼働せずハウス内湿度が高まること、また、強日射により、日の出後のハウス内気温が急上昇し結露しやすくなることから、発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

2)すすかび病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 2月の調査では発生面積は平年より多く、発病程度は高かった。
- (2) 3月の気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。夜温が高めに推移した場合、加温機が稼働せずハウス内湿度が高まること、また、強日射により、日の出後のハウス内気温が急上昇し結露しやすくなることから、発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3)灰色かび病

予 想 発生量：やや多(中央部)

根 拠

- (1) 2月の調査では発生面積は平年並、発病程度は平年より低かった。
- (2) 3月の気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。夜温が高めに推移した場合、加温機が稼働せずハウス内湿度が高まること、また、強日射により、日の出後のハウス内気温が急上昇し結露しやすくなることから、発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 換気などによりハウス内湿度の低下に努めるとともに、発病した果実はほ場外に持ち出して処分する。

4)黄化葉巻病

予 想 発生量：やや多(中央部)

根 拠

- (1) 2月の調査では発生面積、発病程度とも平年並であった。
- (2) 例年、低温期にはほとんど発生が見られないが、既発ほ場を中心に新たな発病株が確認されている。また、媒介虫であるタバココナジラミの発生は、低密度ながら確認されている。
- (3) 3月の気温は平年並か高いと予想されており、潜在感染株で発病が見られ始めること、また本病の媒介虫であるタバココナジラミの活動が活発になる時期であることから、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底するとともに、ウイルスを保毒した虫がハウス外に飛び出さないよう対策を講じる。
- (2) 発病株はほ場外に持ち出し、埋却するなどして処分する。

5)タバココナジラミ

予 想 発生量：やや少(中央部)

根 拠

- (1) 2月の調査では発生面積は平年より少なく、発生程度は低かった。

- (2) 3月は気温が上昇し、本虫の増殖に好適となる時期であることから、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。
(2) 黄色粘着トラップの設置等により、本虫の早期発見、早期防除に努める。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ(こうち農業ネット)<https://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③病虫害発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病虫害 etc.

高知県農薬情報システム <https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/haishinfile/list/kochi>

- ①農薬の検索
- ②農薬データの一覧
- ③配信ファイルの閲覧(農薬安全使用、病虫害防除指針 etc.)